年頭にあたって

岩見沢市長　渡　辺　孝　一

市民の皆様、あけましておめでとうございます。

新しい年を迎え、私は、岩見沢市長として8年目、2期目の最後の年を迎えました。新たに気持ちを引き締め、市民が主役の市政運営を進め、「人にやさしい温かい街づくり」にまい進していりたいと思っています。

昨年は嬉しいことがありました。平成12年12月に焼失して以来、市民が待ち望んでいたＪＲ岩見沢駅が、公共施設と一体となった駅舎として、昨年3月にオープンしました。さらに11月には、市民参加の取り組みが評価され、デザイン分野の最高峰である２００９グッドデザイン大賞を受賞しました。ＪＲ北海道はもちろん、建設に携わった皆さんもがんばりましたが、何と言っても、市民一人ひとりの情熱が形になって現れたのが最大の要因であります。これは、21世紀のまちづくりのあり方で「地方分権の市民、企業・団体、行政のあり方」の見本を示したものです。

互いに責務を全うすることで、すばらしいゴールを達成できるということの実体験であったのではないかと考えます。今後も「市民本位のまちづくり」「市民一人ひとりが主役」の姿勢を堅持し頑張りたいと思います。

さて、わが国は、国、地方を問わず、大きな転換期を迎えています。経済情勢や国際情勢、さらには地球規模の環境問題など、先の見えない不安定な状況の中にあるといえます。

また、昨年8月には衆議院総選挙が行われ、政権が交代しましたが、新政権によって様々な法律や制度などの改正、廃止が予想されます。

そうした中で、特に地方財政は、一層その厳しさを増しており、地方公共団体は、より簡素で効率的な行政運営を推進し、質の高い市民サービスの提供に努めていかなければなりません。

また、市民の皆様の暮らしを守り、岩見沢市をさらに発展させるためには、常に現状を把握し、直面する様々な行政課題への危機感を共有しながら、市民と行政が一緒になって知恵を絞り、創意工夫を重ねながら、市民生活の充実と強化にしっかりと取り組み、魅力あるまちづくりを進めていく必要があると考えています。

青年とまちづくりを語る

人にやさしい温かい街づくり

このような、厳しい状況の中で、さらに岩見沢市民一人ひとりが自分のまちにどれだけの思いを持てるか、行政がどこまで市民とスクラムを組めるかがキーポイントになると考えます。

市民が笑顔で支え合い、助け合って「ふるさと岩見沢」を実感できるのかが大事なのです。

私のこれからの重点目標は、今の岩見沢を考えますと、将来のための医療・福祉・教育の基盤整備はもちろんのこと、やはり、地域経済の活性化が一番大きな問題であると思います。

基幹産業の農業においては、所得向上を目標に安定した農業作りのため

- 岩見沢の農産物、加工品に、いかに付加価値をつけるのか
- 他都市交流を深め、岩見沢のファンづくりをどう拡大していくのか
- 後継者問題を見据え、将来ビジョンをどのように関係者と企画できるか

地元企業の発展のため

- どのように景気対策のための財源を確保できるのか
- 行政が企業間協力・市民との協力をどのように作り上げるか

中心市街地は

- 市民、企業・団体、行政の役割分担をどのように具現化するのか
- 「新しい芽」をどのように育てていけるのか

など、古くて新しい問題が山積みです。

私は、できるだけ多くの方に、市政についての建設的なご意見・ご提案をいただきたいと思っています。そのため、職員には積極的に地域に出向いて市民の皆様の生の声をしっかり聞いて対応するように伝えています。そのことが、住民自治の基本となる「市民が主役の行政」の実現につながるものと考えています。

私は、これからも市民の皆様と一緒に汗をかき、全力投球する決意でおりますので、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして、素晴らしい年となりますよう心からお祈り申し上げ、年頭のあいさつといたします。

平成22年　元旦